編 集 後 記

2019 年 12 月に中国の武漢で発生した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が急激な勢いで日本をはじめ海外にも伝播し, 2020 年を迎えたグローバル世界を震撼させています。「マスク着用」「手洗い励行」「不要不急の外出を控える」等の対策が連日報道されていますが, 重症急性呼吸器症候群（SARS）に似た特徴をもつとの報告もあり，油断ならぬ難敵です。「インフルの　ふりして迫る　コロナかな」と用心すべき目に見えぬサイレントキラーです。

人体には，体内に病原菌や毒素などの異物が侵入しても，それに抵抗して打ち勝つ免疫力が備わっていますが，それを打ち破って，個体生命を死に至らしめる強者ウイルスもいます。例えば，麻疹（はしか)。麻疹ウイルスによって引き起こされる急性の全身感染症ですが，感染力が非常に強く，空気感染，飛沫感染，接触感染でヒトからヒトへ伝播し， COVID-19 を凌ぐ疫病でした。しかし，文明社会ではワクチン接種が普及し，今や制御できる環境です。

国際保健学の山本太郎氏は,「麻疹は,人類最初の文明が勃興した頃,イヌあるいはウシに起源をもつウイルスが種を越えて感染し，適応した結果，ヒトの病気となった。ヒトが野生動物を家畜化し，家畜化した動物との接触が感染適応機会の増大をもたらした。ティグリス川とユーフラテス川に挟まれたメソポタミア地方が，麻疹誕生の地となった。理由は，この地が人類史上初めて麻疹の持続的流行を維持するに充分な人口を有したからにほかならない。」(『感染症と文明―共生への道』岩波新書 2011 年 6 月）と述べています。自然と人間の共生が課題です。

公衆衛生学の岡田晴恵氏は,「それぞれ文明や社会には，その時代に特有の疫病があった。また疫病そのものが，社会を創る一つの要因にもなっていた。その時代に生きた人々にとって，疫病は避け難いものであった。そしてある者は死に，ある者は生き延び，そのくり返しのうちに生命の連鎖が現在まで繋がれてきたのであった。この生命の連鎖（いのち）が歴史を形成し，疫病もまた歴史を動かす大きな歯車となった。」(『感染症は世界史を動かす』ちくま新書 2006 年 2 月) と述べています。今回の COVID-19 もやがて世界史の大きな歯車となるでしょう。

今号は，こども学科 8 件，スポーツ学科 4 件，教養教育部 1 件，合計 13 件の投稿がありました。どうぞご高覧ご批正くださいますよう，宜しくお願い申し上げます。

2020 年 3 月吉日

編集委員長　馬場　治

《投稿された論文等に関する著作権は基本的に人間科学部会に帰属します》

「金沢星稜大学学会 会則と規程等」については下記 WEB サイトの閲覧をお願い致します。

http://www.seiryo-u.ac.jp/u/education/gakkai/research02.html